





20
112

千の巻一

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に

世にいとくさるるに物なれ世に



うぐわすもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

喜ばしむるもろりあてます 巴

山陰の道(細い)月夜の静けさ

舟がゆく

船中の静けさ 夜の静けさ

山の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

舟の静けさ

舟の静けさ 夜の静けさ

あらん多也あはれなる人にては

實てさつちり後ありて

うよほありし福しきをしては

あらんあはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

あはれなる人にては

まゝのらふまゝに
たはしの契りありし人をして
あつらひぬをまじりしむる花
と云ふ

わがふらえりし産花は
はかりん人十数に産花を
そんりしと方折ししを
掃のらふまゝに
どけりしきとのい

おもしろいなるいづれに
はかりん人十数に産花を
そんりしと方折ししを
掃のらふまゝに
どけりしきとのい

まゝのらふまゝに

まゝのらふまゝに

まゝのらふまゝに

まゝのらふまゝに

君らきしんしは
るの款りし
荒未表賦を
詞余龜山下
解官休身
之漸成爲
君昏臣諛
元處
想
なりお節の
非なりわら

西の初の時までしつとくも
中野へまゐるんれくけあつて

一板招きよし新し知れ天非乳

向あつて一夜へ招きしつとく

あつてしつとくしつとくしつとく

あつてしつとくしつとくしつとく

しつとくしつとくしつとくしつとく

葛は合

りあつてあつてしつとくしつとく

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

めづらしき川に流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

まじりて流るる水は

初戦の神也

泉川流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

流るる水は

付由も黙りもく人のあはれ
御持がらん一物とわらわし
おまゝいんりまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

あうおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ
おまゝおまゝ
おまゝおまゝ
おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

おまゝおまゝ

川端城ありと又かの川端は
下人の家の家礼高氏と云合て
つらつらと女まの廻りあり船も
かをかりつらつらと舟も
あ入りつらつらと舟も
しつらつらと舟も
をかりつらつらと舟も
のまもつらつらと舟も
あ入りつらつらと舟も

馬をかりつらつらと舟も
しつらつらと舟も
あ入りつらつらと舟も
しつらつらと舟も
あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

あ入りつらつらと舟も

け形見の衣に於て人の服衣なり
うたし隙ちたらしむる物
はるへ一回あつたあはれ
そんごころのあはれ
あはれ

遠山伏も辛く入り書

入書のあはれはあはれなり
あはれのあはれはあはれなり
いそぎ又書衣いりうへ
くげりに書衣出で常知事日
あはれうへに於て知事外也
くげりに書衣出で常知事日
あはれうへに於て知事外也

知事いり書

杉じいあはれのあはれなり
あはれうへに於て知事外也
あはれのあはれはあはれなり
あはれうへに於て知事外也

遠の書いり書

船つちいり書のあはれなり
あはれのあはれはあはれなり
あはれうへに於て知事外也

あはれのあはれはあはれなり
あはれうへに於て知事外也

ちんげいに招きと出しぬらうと
下らうたり原のこゝを

ありの候ふちの候のこゝを
けりまき年暮りのうらむしに
わたりぬらうと出まて

こゝろけりおのけりわたりぬらうと
けり又もねとちのけりわたりぬらうと
ねわたりぬらうと出まて

けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて

けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて

けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて

けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて

けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて
けりわたりぬらうと出まて

馬ふともしめし

藤ふれりしとてそのりしなほて日

藤ふり人は秋まふりてこの侍

馬ふてまはれし物とてその馬ふり

馬ふりのりふりしりちるを

日しにまろりしとて馬ふり

藤ふてまはれし物とてその馬ふり

限あつてしむきまらぬしとの純日

つららちてまはれし物とてその馬ふり

力のあつてしむきまらぬしとの純日

クモの雲のふりし葉を流すま

つららちてまはれし物とてその馬ふり

別は母ろりしとてその馬ふり

言ふにしむきまらぬしとの純日

おとしまらぬしとの純日

炭のふり焼木りしとてその馬ふり

らりしとてその馬ふり

卯辰の場ふりしとてその馬ふり

あつてまはれし物とてその馬ふり

里まらりしとてその馬ふり

卯辰の場ふりしとてその馬ふり

里まらりしとてその馬ふり

卯辰の場ふりしとてその馬ふり

里まらりしとてその馬ふり

卯辰の場ふりしとてその馬ふり

里まらりしとてその馬ふり

卯辰の場ふりしとてその馬ふり

里まらりしとてその馬ふり

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, twelfth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, thirteenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, twelfth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, thirteenth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourteenth line of the left page.

— 1 —

— 2 —

— 3 —

— 4 —

— 5 —

— 6 —

— 7 —

— 8 —

— 9 —

— 10 —

— 11 —

— 12 —

— 13 —

— 14 —

— 15 —

— 16 —

— 17 —

— 18 —

— 19 —

— 20 —

— 21 —

— 22 —

— 23 —

— 24 —

— 25 —

— 26 —

— 27 —

— 28 —

ふらふらいふいふはなをのこり
事あるに古事もあはれはのこり
あはれもあはれもあはれ

千手千眼あはれあはれはなの日

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

半のこりあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

かきつばたのうらみはあはれなる

かきつばたのうらみはあはれなる

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなる

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなるかきつばたのうらみ

あはれなる

あはれなるかきつばたのうらみ

後のいしあしあを

龍のりりかききしりるなりは

あま(に)はしあましあましあ

けいんききしりるなりは

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あま(に)はしあましあましあ

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

あつたかよひりりり

御の丸御印してなすとおた
しりてかきかきしり古枕長柄
次あり古手付合を

老のなるゆきやむね
古裏をすくすくあはれ
碎也

心ころ出りしころ家あり世日
いれあはれなすしり福
いれしと

なすしりしとのせしりくまては
伊勢物取し家ありなすしり
馬鞍カ文遣カ笛舞カ花カ是カ施カ臣
遠子カ平書カ羅カおカりカ遠カ子
謂遠出え者下略ありしり

物家ありしとのせしりくまては
けりしとをしりしと家ありしと
しりしとをしりしと家ありしと
出家ありしとをしりしと家ありしと
しりしとをしりしと家ありしと

しりしとをしりしと家ありしと
なすしりしとをしりしと家ありしと
しりしとをしりしと家ありしと
さりしとをしりしと家ありしと
あしりしとをしりしと家ありしと
あしりしとをしりしと家ありしと

あしりしとをしりしと家ありしと
あしりしとをしりしと家ありしと
あしりしとをしりしと家ありしと
あしりしとをしりしと家ありしと

梅花にたゞ一人あはれ

君の一人り君の初夢の

よきよきとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれと

うんたはたふくむくむく

嵐の初夢のしししし

あはれとらふものかきし

あはれと

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれと

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれの梅と

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

あはれとらふものかきし

所子なきかちちちしつ子ぢぢぢ
吾氏の君もろこしにけりしりりり
後よりとく作しを丁公高のり
古よぬし

そそりし車もまたよぬぬぬ
しあまきさしし車もまたぬ
ししりりり

ちのりし車もまたぬぬぬ
ししりりり

ししりりり
ししりりり

ししりりり
ししりりり

けりしりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり

くら本の梅もまたぬぬぬぬ
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり

ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり

ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり
ししりりりりりりりりり

限らるる家の戸はしりぞきの
くしらうしほまきまきしすま
ゆるゆ後のあとのり原は
とらふとてあつらひのこころ
二かり

いふまじりやあまのこころ
あまのこころ

花のまうふ片まの森
かたの名をこころをさそ
きりとも

都云々のまじり考代して
みだりなまじりしにたのふ
井ふらゆ白ふと都云々
けさかこころのまじり

かすむいふありぬのつらく日
ふあは

第10

あまのこころいしつらきまじり
唐李輔國
家よ夏の日はあまのこころ
涼しきすまの雨陽難組ぢり
板着に皮草をまじりしり
あまのこころいしつらき
一のまじりまじり

徳をうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

まはるるをうたへ

あはれにわたりてはるる

Handwritten text in Arabic script, likely a title or header.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script.

ほの神のくさるるを
ありかたし

すまはるる月を
は神のまをのむるの月
すまはるる月を
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月

あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月

あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月

あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月

あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月
あつたてのまをのむるの月

光年...
人...
し...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...

翹るるはくちあしし馬 巴
あゆきふと

だんごせうせきとさむらぎのたはら
早々のあゆみ馬のしりあぐ
なす

いづれはあつたのたはら
菫のたのむのたはら

教あるたはらしりのたはら

片雲のたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

しりあぐ

あつたかしのたはらしりのたはら 日

年五

あつたかしのたはらしりのたはら 絶

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

あつたかしのたはらしりのたはら

鳥の鳴き声はさかづき
しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

鳥の鳴き声はさかづき

しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

鳥の鳴き声はさかづき

しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

あつたつたつたつたつた

鳥の鳴き声はさかづき

しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

鳥の鳴き声はさかづき

しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

鳥の鳴き声はさかづき

しほのうらみはさかづき

あつたつたつたつたつた

うらみうらみうらみうらみ

鳥の鳴き声はさかづき

花より花よりいりて

中とてしすもいりあ秋の日はしし巴
一 蕉ひらさを花よりて道のり

るあは秋あしる花を

ふりあしし花の物とてのいりて

かきしあて

ふりの物とてのいりてのいりて

花よりけし山のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

山のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

花のいりてのいりて

花のいりてのいりてのいりて

向へてはしるる人をもてし
まゝのちりきりきりきり
しるる人をもてし

しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし

お梅さま

しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし

しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし

しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし

お梅さま

しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし
しるる人をもてし

お梅さま

別れ難と相愛きまゝに付後
花を寄物名前の訪達前して日
端の甲より部つたの夜すまふ
にちりちりちりちりちりちり
しんくありしてすぼりり情巴
布敷のいぢたたのちもいぢ
しんくあり
籠のうんまはきしんくは縁巴
膝の上まはきしんくは縁巴
未ゆきまらに情りして
すはなもあつるもさるん
おしはあつる情のしんく
務しんくまらしんく
ゆゑよの日の下は情くよの

ちりちり情のしんくは縁巴
務しんくまらしんく

ちりちり情のしんくは縁巴
務しんくまらしんく
人をおん

ちりちり情のしんくは縁巴
務しんくまらしんく
人をおん

ちりちり情のしんくは縁巴
務しんくまらしんく
人をおん

つねに

さすくみちのちのりするゆゑ

おきかへしつゝ

越つてはまはるるまはるる

越つてはまはるるまはるる

けりゆゑ

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

うとくあはれまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

ついでに

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるる

